



## 学校・行政・JAや生産者など、さまざまな団体との連携により 地産地消をすすめる「たべる、たいせつ」食育活動

いばらきコープ生活協同組合（茨城県）

いばらきコープ生活協同組合は、ビジョン2025「食卓を笑顔に、地域を豊かに、誰からも頼られる生協へ」を掲げて、豊かな地域作りにも貢献する食育活動を進めている。この中で、食育サポーターチームをつくり、小学生や幼稚園児に向けた多彩な「たべる、たいせつ」食育活動、JAや生産者との連携による農業体験、行政機関との連携による「茨城をたべよう！」食育体験活動を実践している。

JAや生産者との連携による食育活動として、20年以上行っている田植え、案山子作り、稲刈りまでの一連の作業を生産者と交流しながら体験する「あぜ道交流会」やバケツ稲を育てる「おむすびレンジャー」等を通じて、食べ物への感謝の気持ちを育てている。

さらに、復興支援「福島の子ども保養プロジェクト」では、福島県の子供たちとその家族を招待して、県特産品の「干しいも」づくりなどの食育体験活動を行っている。

「たべる、たいせつ」食育教室では、「楽しく食べる」「日本型食生活」「地産地消」の大切さを学んでおり、2014年度は29箇所ですべて3,195名が参加した（平成27年2月10日現在）。また、活動を支える食育サポーター育成のための資格制度や研修の仕組みは、全国の生協からも注目されている。「和食のすすめ」というプログラムでは、「出汁」をよく取ると味噌の量が少なくても美味しい味噌汁ができることを経験してもらうなど、和食の最大の知恵である「出汁」の素晴らしさとその栄養を伝えたり、「鍋でご飯を炊いておにぎりを作る」等を行っている。

このように、いばらきコープ生活協同組合では、子供たちとその親を対象にした多彩な取組を通じて、地域の食育の推進に貢献している。



【小学校の食育教室】



【あぜ道交流会の稲刈り】

【第2回 食と農林水産業の食育優良活動表彰農林水産大臣賞（企業部門）受賞】

## 地域と人、農業を結ぶJAの農業体験

めぐみの農業協同組合（岐阜県）

めぐみの農業協同組合は、地域と人、農業を元気にすることを目的として農産物の収穫体験等を通じ、地域農業や食の大切さへの理解、地域の活性化、地域交流等を図っている。

12年前から、夏休みを利用して、JA管内の小学生とその保護者を対象とした農業体験（食農活動）を実施している。1校30人の応募企画からスタートしたこの活動は、現在では31校、14企画、約620人が参加する人気企画に発展、地域の小学校、県立高等学校、農家や女性グループ、行政など、多くの方が様々な立場で企画に関わっており、地域の活性化につながっている。

また、この取組は、学校を通じた募集から体験の実施、教育委員会への活動報告や、参加者からの声の把握、広報活動、企画への反映までの年間の流れがシステム化されている。魅力ある多彩な体験コースとするため毎年1年前から企画・立案するなど、常にステップアップした取組とするよう努めて実施している。

農業体験は、内容や地域の異なる8つのコースがある。参加した保護者からは「買って食べるだけでは見えない、貴重な体験」「農業の大変さがつくづくわかった」「親もテンションが上がる」などの声があり、子供からも「不思議なこと、驚くこと、大変だなと思うことの連発」、「野菜を収穫して笑顔になれた」などの声が寄せられている。

食べ物と農業の重要性を伝えながら、地域と密接なつながりを持つ、JAだからこそできる食農活動であり、今後の活動が期待される。



〔第2回 食と農林水産業の食育優良活動表彰農林水産大臣賞（一般部門）受賞〕

## 事例

## 企業における農業体験活動

伊藤忠商事（大阪府）

伊藤忠商事株式会社は、人々の暮らしを支える様々な商品やサービスを提供する総合商社である。中でも食品は大きな位置を占め、食品を含む生活消費関連ビジネスは業界最大規模である。

同社では、普段扱っている食品の原点について、誰が、どのように作り、どのような苦労があるのか、体験を通して社員に実感してもらうとともに地域に貢献するために、平成21年からCSR(企業の社会的責任)活動の一環として、農業体験を行っている。

きっかけは、企業と地域が協働・交流活動を通じ、安全・安心な米づくりや地産地消の推進、地域の景観保全を図る取組である、和歌山県の「企業のふるさと」制度への参加であった。

和歌山県かつらぎ町天野地区において、10アールの水田を活用して、毎年、田植えと稲刈りを実施している。体験に向けて、県との打ち合わせ、地元の方との顔合わせ、実際に作業する水田の見学や当日の時間配分や役割分担をメールで打ち合わせること等、県のサポートを受けながら、準備を進めている。さらに、地域振興を進める「天野の里づくりの会」から、当日の田植え・稲刈りの技術指導、トラクターや農機具の貸し出し、交流のためのバーベキューの準備、普段の水田の手入れ、水田の状態の写真報告等の協力を得ている。

参加は、若手を中心とする社員やその家族で、当初は約50名であったが、6年目の平成26年は約90名に拡大している。地元の農家のていねいな指導の下で、初めて田植えや稲刈りを体験する社員らも、安心して挑戦でき、また、多くの参加者から、「農業の大変さ、大切さを実感した」「自分で田植えや稲刈りをしたお米は格別おいしい」などの声が聞かれる。春に植えた小さな苗が成長し、稲穂になるのを見ると、参加者の誰もが感動し、農業の大切さや苦労に理解を深める機会になっており、この活動は、CSR活動だけでなく、社員の食育や福利厚生にもつながっている。

このほか、地域内の高野山参道などの世界遺産史跡周辺の清掃、ホテルの生息環境の整備、アジサイの手入れ等、そのときどきに地域に貢献できる作業を行って、地域の方々との交流も図っている。



参加者全員で記念撮影



稲刈りの様子